



厚生労働省 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業

地域包括ケアNEWS (精神)

第2号
2019.8

世界メンタルヘルスデー2019・シンポジウム

深めよう理解を！広めよう活動を！

～誰もが暮らしやすい地域をつくるために～

★ 自治体における普及啓発活動のご参考にもしていただける内容です ★



令和元年

10月10日(木)

10:00～16:00

場所：女性就業支援
センターホール
(東京都港区)

- 第1部 普及啓発活動の取組発表、ディスカッション ～行政・関係団体等向け～
- 第2部 講演「精神医療の現状（仮題）」、体験発表、シンポジウム
★ 講演や落語などのイベントを予定しています！ ～国民等向け～

詳細なプログラムや申込については、後日ポータルサイト（<http://www.mhlw-houkatsucare-ikou.jp/>）にて公表予定です（9月上旬頃）。

※毎年10月10日は「世界メンタルヘルスデー」

- WHO等が国際デー（記念日）の一つとして、メンタルヘルスの問題に対する関心を高め、偏見を無くし、正しい知識を普及することを目的として、定めています。



NCNP データ研修 参加報告！

7月8日（月）、NCNP データ研修に事務局から参加しました。感想をお伝えします。

前半は、基本的な「精神保健福祉資料の見方と使い方」を、後半は、モデル地域のデータを元に、データから、「読み取れること、読み取れないこと」を、整理し、課題を探る力をつけることができました！



<感想>

それぞれの地域に持ち帰った際に即座に実践可能なスキルを習得できる、有意義な研修であると感じました。

- ReMHRADの具体的な使い方を学べる
- 協議の場、議論する際の、データの選ぶポイントが分かる
- だれにでも、伝わりやすい、資料作成の視点が分かる
- 参加者同士、資料を紹介し合い、改善点などがディスカッションできた

次回は、**10月4日（金）開催！**

事務局も参加して、大変効果的な研修だと感じました！

ふるってご参加ください。

<対象者>

- ・都道府県で精神疾患の医療計画・障害福祉計画・介護保険事業計画を企画立案する担当部署職員
- ・政令市、中核市、精神保健福祉センター、保健所等で、同様の職務を行う職員

<研修日程> 2019年10月4日（金）

<定員> 100名（応募者多数の場合は選考）

※精神障害にも対応した地域包括ケア構築推進事業に参加されている自治体の方を優先します。

<申込方法・期間>

WEB 2019年8月末まで

https://www.ncnp.go.jp/nimh/kenshu/2019/2019_57.html

<受講料> 無料

<会場> 国立精神・神経医療研究センター 教育研修棟ユニバーサルホール

ReMHRADがリニューアル

自治体値と全国値を比較して色付けされるなど、より見やすくなっています。
一度、ご確認を！

URL:<https://remhrad.ncnp.go.jp/>



熊本市の取り組みについて

7月22日(月)、今年度より構築支援事業に参加した熊本市において、令和元年度第1回目のモデル病院・相談支援事業所とアドバイザー(密着・広域)による会議が開催されました。主な内容は以下のとおりです。

【参考：熊本市の地域移行・定着に関する取組】

- 平成17年度～ 精神科病院・事業所・行政等による連携会議開始
- 平成24年度～ 熊本市が政令市に移行
地域体制整備アドバイザー配置事業、高齢入院患者地域支援事業、ピアサポート活用事業開始
地域移行支援協議会設置
- 平成27年度～ 人材育成研修(熊本県主催)に参画、圏域ごとのロードマップ作成
長期入院精神障がい者の地域移行に関する意向調査(対象：患者及び病院職員)を実施
- 平成29年度～ 意向調査結果を基に「退院支援ポスター」「地域移行支援リーフレット」を作成
- 令和元年度～ 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業参加

令和元年度熊本市現地支援会議(9:30～15:00)

【地域移行支援(個別給付)を利用した退院支援の実践について】

熊本市における地域移行支援(個別給付)を利用した退院支援の実践に向けて、モデル病院・相談支援事業所と密着AD、有野広域ADを交えて意見交換が行われました。

<課題>

- ・病院ごとに退院支援のスタンスが違う。
- ・支給決定後、病院と相談支援事業所の役割分担が不明確である。

<アドバイス>

- ・カンファレンス等を活用し、少しずつ両者のギャップを埋めていくことが重要である。
- ・明確にそれぞれの立場で役割分担をするのではなく、地域移行支援について知見を持っている方が旗振り役を担うなど、ケース・バイ・ケースで判断するほうがよい。



【ピアサポート活用事業について】

熊本市ではこれまで地域移行支援でピアサポートの活用事例は無いため、今後の活用方法について意見交換が行われました。

<アドバイス>

- ・熊本市のピアサポーター養成の方向性(プロか、インフォーマルか)を明確にする。
南アルプス市ではプロのピアサポーターの活用形態として、たすき掛け雇用(A病院の患者をB病院で雇用、またB病院の患者をA病院で雇用)を行っている。
- ・地域移行支援を実践する病院での支援にピアサポーターを入れてもよい。

【退院支援ポスター・地域移行支援リーフレットの活用について】

<課題>

- ・平成29年度に作成したが、これらを用いて実際に地域移行支援に繋がったケースが無い。
- ・作成した経緯が病院職員に伝わっておらず、ポスターは病棟に何となく貼ってあるのみ。入院患者の反応を拾い上げられていない。また反応に気づいたスタッフから市への連携がない。

<アドバイス>

- ・平成27年度の意向調査で「病状安定・退院意欲有」の患者や各病院で把握している地域移行可能な患者等、地域移行の可能性が高い患者に密着ADや構築支援事業メンバーがリーフレットを持参し、直接話していくべきである。
- ・リーフレット記載の相談先を熊本市の担当課として窓口や対応を一本化したほうがよい。





◎熊本市ご担当者より一言（精神保健福祉室 吉住氏）

本市では、関係機関の連携による退院支援の促進と地域移行に必要な地域体制の整備を図ることを目的に、毎月の連携会議の開催、ピアサポートを活用した退院支援、ポスターやリーフレットを使った地域移行支援の啓発を行なう等、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを進めてまいりました。

今年度は、構築支援事業に参加し、広域AD・密着ADと課題の共有・戦略立てを行ったうえで、地域移行支援のモデル病院・相談支援事業所を選定し、そこから具体的なケースを選出することで、遂に本市でも地域移行支援の利用に向け実際に動き始めることができました。

今後もADのお力を借りながら、構築支援事業メンバーとともに本事業を進めていきたいと思っております。また今回の取り組みをきっかけに、本市全体に地域移行支援の利用が広がっていくような仕掛けづくりも考えていきたいと思っております。

◆◆◆熊本市の今後の取り組み・展開に向けた意気込み◆◆◆

◎広域AD 有野 哲章 氏

今年度は熊本市を担当させていただきます。東京でのアドバイザー会議で初めて顔を合わせ、7月22日に第1回目の現地支援に入りました。熊本市の課題を考えると①地域移行の支給決定に時間がかかること、②指定一般事業所が少ないこと、③病院ごとの温度差があることがあげられます。

このことは今更私が言うまでもなく、現地の方々には分かり切ったことであり、どうかしたいと思って構築支援事業に手を挙げていただけたと感じています。

「どうなるか」ではなく、「どうするか」。熊本市の密着アドバイザーのよい雰囲気を生かし、なんとかこの問題を解決できるように頭をひねり、体を動かしていきたいと思っております。まずはみんなが動きやすい仕組みをつくっていくことを目標にします。

◎密着AD 大島 高昭 氏

皆さまはじめまして。私は熊本市西区池田にあります桜が丘病院のアウトリーチ部門で精神保健福祉士として訪問活動を行っております。今回地域密着アドバイザーとして役割を与えて頂き本当にありがとうございました。これまで、精神科病院の病床削減と退院促進の取り組みは行われており、熊本市でも地域移行支援部会を定期的に開催し活動して参りましたが、患者さんがリカバリーを果たし生活者としての役割を担う機会を得られてこそ本当の意味での地域移行ではないかと思っております。今回の取り組みが、精神科医療と地域福祉が密接に連携し、精神障がいを抱えた方たちが生き活きと自分らしく暮らせる社会につながる仕組み作りに繋がるように、熊本独自のやり方を模索できるよう密着アドバイザーとして精一杯頑張っていきたいと考えています。力不足でご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんがどうぞよろしくお願いたします。

◎密着AD 崎山 徹 氏

今年度より構築支援事業に参加させて頂き、熊本市密着ADとして活動させていただくことになりました崎山と申します。相談支援事業所に勤務しております。

これまで熊本市協議会に属する地域移行支援部会を通じて様々な取り組みを実施し、地域移行の必要性を医療機関や相談支援事業所を中心に伝えさせて頂きました。今年度からは構築支援事業に参加させて頂き、新たなアプローチで熊本市らしい地域移行支援を目指していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

◎密着AD 中野 誠也 氏

宿泊型自立訓練施設に勤務していますが、残念ながら、これまで、地域移行支援を活用した利用者はいません。今回、熊本市が平成27年度に行った意向調査で「病状が安定しており退院意欲が高い」と答えた48名の入院患者のうち、「地域移行支援サービスを利用したい」と答えた21名のもとを訪問する予定です。新たな出会いを楽しみに、地域づくりに必要な社会資源や住民とのつながりを考えていきたいと思っております。

【編集後記】

8月に入り、現地支援の報告をたくさんいただくようになりました。本地域包括ケアNEWSを通じ、より多くのモデル自治体の情報を発信してまいりたいと考えておりますので、取材や執筆へのご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。

屋内外の気温差で冷房病に悩まされています。皆さまもくれぐれも体調管理にはご留意くださいませ。（笠原）

当記事に関するお問合せは、事務局までお寄せください。

厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 精神・障害保健課

担当：名雪、柿澤、瀬戸、塩崎、山本

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
構築支援事業事務局

(株式会社日本能率協会総合研究所)

担当：玉木、田中、河野、中村、川崎、笠原

電話：0120-876-300

メール：houkatsu_care@jmar.co.jp